

# 一般会計予算決算常任委員会 総務文教分科会 審査日程

日 時 令和2年6月11日（木）

総務委員会審査内容2終了後

場 所 第2委員会室

## 1 議案第65号 令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算(第7回)について

### 審査番号① 企画部、山陽総合事務所

#### (1) 歳入に係る説明

- 19-1-1 財政課

#### (2) 歳入に係る質疑

#### (3) 歳出（特定財源を含む）に係る説明

- 2-1-1 山陽総合事務所
- 2-1-4 財政課
- 2-1-10、7-1-4 シティセールス課（歳入19-1-3）

#### (4) 歳出に係る質疑

### 審査番号② 総務部

#### (1) 歳出（特定財源を含む）に係る説明

- 2-1-2 人事課（歳入19-1-2）
- 2-1-13 総務課（歳入21-4-2）
- 2-2-2 税務課（歳入19-1-2）

#### (2) 歳出に係る質疑

### 審査番号③ 教育委員会

#### (1) 歳出（特定財源を含む）に係る説明

- 10-2-2、10-3-2 学校教育課（歳入15-2-6、19-1-2）
- 10-2-3 教育総務課（歳入15-2-6、22-1-6）  
（繰越明許費補正及び債務負担行為補正：埴生小・中学校整備事業）
- 10-5-1、10-5-3、10-5-4 社会教育課（歳入16-2-8、19-1-3）

#### (2) 歳出に係る質疑

※1 審査の進行状況により、審査の前倒し、先送りを行うこともあります。

※2 歳出の説明するとき特定財源がある場合は、歳入のページを示し、歳入についても説明をお願いします。

## 目的

「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急を実現

### 児童生徒の端末整備支援

#### ○ 「1人1台端末」の早期実現 1,951億円

令和5年度に達成するとされている端末整備の前倒しを支援、令和元年度補正措置済（小5,6、中1）に加え、残りの中2,3、小1~4すべてを措置

対象：国・公・私立の小・中・特支等  
 国公立：定額（上限4.5万円）、私立：1/2（上限4.5万円）

#### ○ 障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備 11億円

視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる障害に対応した入出力支援装置の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・特支等  
 国立、公立：定額、私立：1/2

### 学校ネットワーク環境の全校整備 71億円

整備が可能となる未光地域やWi-Fi整備を希望し、令和元年度補正に計上していなかった学校ネットワーク環境の整備を支援

対象：公立の小・中・特支、高等学校等  
 公立：1/2

### GIGAスクールサポーターの配置 105億円

急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、ICT関係企業OBなどICT技術者の配置経費を支援

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等  
 国立：定額、公私立：1/2

### 緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備

#### ○ 家庭学習のための通信機器整備支援 147億円

Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う、LTE通信環境（モバイルルータ）の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・特支等  
 国公立：定額（上限1万円）、私立：1/2（上限1万円）

#### ○ 学校からの遠隔学習機能の強化 6億円

臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等  
 公私立：1/2（上限3.5万円）、国立：定額（上限3.5万円）

#### ○ 「学びの保障」オンライン学習システムの導入 1億円

学校や家庭において端末を用いて学習・アセスメントが可能なプラットフォームの導入に向けた調査研究

### 施策の想定スキーム図



※上記は公立及び私立のイメージ、国立は国が直接補助

# GIGAスクール構想の実現に向けた1人1台端末整備 基本モデル例



## 概要

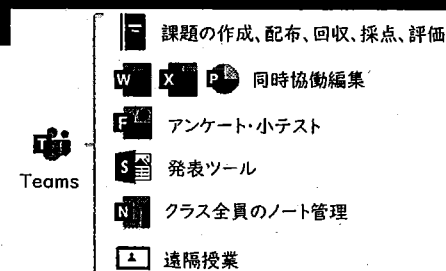
「GIGAスクール構想の実現」に向けた児童生徒1人1台端末の整備事業において、高速大容量の通信ネットワークを前提とした、端末1台あたり4.5万円の補助金を交付します。本資料では、現在教育用に無償で提供されている学習用ツールのライセンスを利用しながら4.5万円で端末を整備するモデル例を提示します。

### モデル例1. Windows OS端末 × 教育機関向けOffice 365 ライセンス(無償)



Windows端末  
(キーボード付)

Word、Excel、PowerPoint といったオフィス機能や Forms (アンケート・小テスト機能) や Sway といった発表ツールがブラウザ上で利用可能です。さらに Teams (右図) を使えば、クラスごとに課題を配布・回収・採点したり、Word、Excel、PowerPointなどのファイルを同時に協働編集が行えます。併せて遠隔授業のためのWeb会議、OneNoteでクラス全員のノートの管理も行え、これらは全て無償で利用が可能です。また、既にご利用の周辺機器やプリンタへの接続も円滑に行えたり、Scratchをはじめ、多くのプログラミング教材 (アプリケーション) をローカルディスクにインストールすることができます。Office 365 については、Chromebook、iPadでも利用可能です。



### モデル例2. Chrome OS端末 × G Suite for Education ライセンス(無償)



Chromebook  
(キーボード付)

#### G Suite for Education

クラス管理

場所を問わずに  
共同編集が可能

小テストの  
自動採点



Chromebook は世界中で3,000万人以上が利用している、教師と生徒が利用するために設計されたシンプルかつ丈夫で軽い端末です。Chromebook で利用できる G Suite for Education は、全てのアプリが無償かつ100%クラウドベースで動くアプリで、時間・場所を問わず共同編集ができるドキュメント (ワープロ)、スプレッドシート (表計算)、スライド (プレゼンテーション) や、自動採点が可能な小テスト作成アプリのフォーム等があります。また、無償の授業支援ツール「Google Classroom」を利用することで、課題の配布・フィードバック・採点・返却・集計を一元管理することができます。

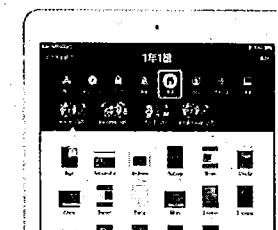
### モデル例3. iPadOS端末 × Apple社が提供する無償の教育用App (無償)



iPad第7世代  
+キーボード



Keynote (プレゼンテーション)、Numbers (表計算)、Pages (ワープロ) といったオフィス機能を持ったアプリやiMovie、GarageBand&Clipsといった動画・音楽編集アプリ、Swift Playgrounds (プログラミング教材) やFaceTime (ビデオ会議) などが無償で提供されており、端末内のローカルでも利用可能です。さらに、教育向けに無償で提供されている協働学習ツール「クラスルーム(右図)」を利用すると、教員用端末から一覧で学習者用端末の状態を確認したり、画面をコントロールできます。



※校内LANを通じて上記のような学習用ツールを端末から利用するための設計/設定については、初年度校内LAN環境構築に必要な費用として、「GIGAスクール構想の実現」に向けた校内通信ネットワーク整備事業にて整備するものとする。 ※上記3 OSが提供するもの以外にも教育利用可能なクラウドサービスは存在するため、選択肢の1つとして検討すること。

# GIGAスクールタブレットPC整備予定台数

全台数整備した場合 ①

	台数
児童用	3,140
予備	162
教員用	257
計	3,559
生徒用	1,551
予備	82
教員用	148
計	1,781
合計	5,340

繰越額(元年度3月補正) ②

	台数
児童用	1,085
予備	68
教員用	90
計	1,243
生徒用	509
予備	26
教員用	33
計	568
合計	1,811

6月補正による整備予定台数 ①-②

	台数
児童用	2,055
予備	94
教員用	167
計	2,316
生徒用	1,042
予備	56
教員用	115
計	1,213
合計	3,529